

加本業基本教育、他對戰重保強攻及休養日ヲ利用シテ中隊、種地構
 築作業ニ從事スル等、全ク休養、遺棄等之ヲ伴フ給養ハ又良好ト言ヒ難ク
 殊ニ新鮮ナル野菜及獸肉種類、不足、脂肪、ビタミン、鉄之ヲ來シ一日平均
 三五〇カロリーニ及ハズ、兵業力價、對シ給養、養價ハ、三〇〇カロリー内外ニテ
 帶ニ五〇カロリーニ足ラズ、見ハ狀態ニテ、又宿營施設ニ部落公共健康築物ヲ
 利用シ採光、換氣等充分ナラザルニ、板間、直接、就處址ニ、器具不足等種々不備
 ナル點アリ、斯、如クシテ兵業、休給養及宿營、不調和ニ、遂ニ體力ヲ、衰弱化セシマ
 以上、事實ヲ、綜合考察スルニ、本人ハ、頑健ナル身體ヲ、以テ入隊、以來前記非衛生
 的環境下ニ、繁敷ナル教育作業、從事、休養給養、不調和ハ、不知不識、間
 諸病、對シ抵抗力ヲ、衰弱セシ、遂ニ、本病ヲ、誘發セルモ、ミレテ、全ク公務ニ、因
 三、三、一、ト認ム

右證明ス

昭和十九年十二月十四日

大東亞戰役勤務期間 自昭和十九年十月十五日 至昭和十九年十二月十四日

第六十二師團獨立步兵第十五大隊長 陸軍少佐 飯塚豊三郎

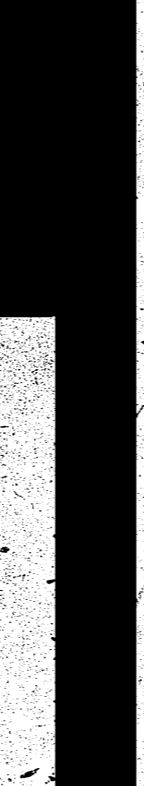
第六十二師團獨立步兵第十五大隊附 陸軍區醫中尉 保條二良

證明書

宇理

本籍地

現住所



所屬部隊

第六十二師團獨立步兵第十五大隊步兵砲中隊

徵集年

昭和十九年官署級氏名陸軍二等兵 平良 蒲松

一病名

流行性腦脊髓膜炎(一〇)

一決定(改正兼發轉症)

年 月 日 昭和十九年十二月十五日

一公務起因ノ理由

本病ハ別紙所屬部隊長調劑衣事實

證明書、通り沖繩縣島尻郡玉城村ニ於テ演習教育中發病セルト認ム

右證明ス

昭和十九年十二月十五日

沖繩陸軍病院長 陸軍軍醫中佐 廣池 文吉

病歴書

本籍地
現在所

第六十二師團獨立步兵第十五大隊步兵砲中隊

昭和十九年徵集陸軍一軍兵 平良蒲松

流行性腮腺炎

昭和十九年十一月十日

沖繩縣島尻郡玉城村字糸敷

別紙事實證明書記載如下

一病名

二發病年月日

三發病場所

四原因

五經過

昭和十九年十一月十日現在後六ヶ市中頭郡北谷村ニ入隊以來連日繁劇ニ海習ハ

從事中十一月十日島尻郡玉城村ニ移動引續キ被教育中十日忽患頭痛食

思不振等アリ十日受診十日十日沖繩陸軍病院ニ入院ス

入院時症狀本格癩瘡養共ニ中等度癩瘡等懸狀ニ呈ス食高熱ニ見舞ハ

可視粘膜、尋常ナリ、胸部内臓、著変ナク、腹部、平坦柔軟、肝脾共ニ觸
シテ歩行困難ニシテ劇ニ頭痛ヲ訴ヘ高熱ニテ號叫ス

(1) 十五日体温三八五度、脈搏八五至、意識ハ半ニ瀕瀕ニシテ、發ス項部強直ニ自力
ニ依リ起居不能ナリ、ケルニシテ、症狀弱陽性ナリ、膝蓋膜反射ハ殆ド消失シ、足蹠
反射ハ亢進ス、眼瞼下垂シ、口唇干裂、高熱ニ乾燥ス、胸腹部臓器ニ著變ヲ認
ズ、前記症狀アルニ依リ、九時十分病室増進、通報ヲ發ス

(2) 入院以來、牙關緊急、瞳孔異常等ナシ、十四時、意識瀕瀕増強シ、昏睡狀態ニ
陥リ、眼ニ下垂ス、項部強直脊部下肢等、強直著明ナリ、ケルニシテ、症狀
陽性、肝脾穿刺液ハ乳白色ニ瀕瀕シ、壓三元、乾、高壓ヲ呈シ、鏡檢ニ結
果、双球菌、陽性ナルニ依リ、病名ヲ流行性髄膜炎ト決定ス

(3) 十六日体温最高元二一度、脈搏一四五至、微弱、顔貌無慾狀、意識不明、膝ナリ
諸症前診時ト著變ナシ

(4) 十七日諸症依然トシテ前診時ト著變ナシ、脊髄液ニ鏡檢液ニ於テ、ラッパニシテ、液ニ、凝注
ス

(5) 十八日顔貌蒼白無慾狀、意識瀕瀕、瀕瀕ニシテ、發シ時、昏睡ス、瞳孔ハ左右不同ニシ
テ對光反應消失シ、斜視ヲ來ス、項部強直著明ニシテ、頭部ヲ移動スルニ疼痛、
表情ヲ示ス、右ニ肢ハ強直性ニ攣縮シ、左ニ肢並ニ下肢ハ無力性ニシテ、半身不隨ヲ
來ス、呼吸ハ不整ニシテ、尿失禁ス

(6) 十九日顔貌無慾若問狀ヲ呈シ、昏睡ス、脈搏頻數、微弱ニシテ、結滯ニ四肢厥冷シテ
、岩層紫藍色ヲ呈ス、諸症増悪トシテ、依リ、十四時十分危篤、通報ヲ發ス

(7) 諸症處置ヲ講セシメ、十九日朝方、諸症益々増悪シ、同日十六時十分、死ニ至ル
脈搏呼吸ハ皆全ク停止シ、遂ニ死ス

六死七年月日 昭和十九年十二月十九日
死亡場所 沖繩陸軍病院

右ニ通候也
昭和十九年十二月十九日

沖繩陸軍病院附 嘉手川 重建